

## 心臓血管外科

### 《概要》

2009年10月より、責任者が泉谷 裕則より松江 一に交代し、新体制となりました。近年、循環器疾患の治療を要する患者様は、高齢化、他疾患の併存などにより、ますますハイリスクとなっています。こういった患者様に質の高い医療を提供するには、患者様、かかりつけの先生方(病診・病病連携)、専門施設が協力し、地域に根ざした診療を行っていくことが大切であると考えております。心臓血管外科は、循環器内科、その他の部門との協同により、泉州地域の心臓病診療の中核的な役割を担う「心臓センター」を運営しています。心臓センターは24時間体制で診療を行っており、あらゆる循環器急性疾患にも対応しています。また、隣接する「泉州救命救急センター」と連携し、高度救急医療における循環器疾患の治療も行っています。心臓血管外科では、麻酔科、中央手術室、中央臨床工学室の充実した体制により、急性大動脈解離や大動脈瘤破裂、心筋梗塞合併症(心室中隔穿孔、心破裂、乳頭筋断裂など)に対する緊急手術が随時行えるようになっています。術後はICU/CCU及び心臓専門病棟にて一連の術後管理を行い、心臓リハビリテーションプログラムにより早期のADL改善を支援しています。

薬剤溶出性冠動脈ステントの登場により、虚血性心疾患に対するカテーテル治療の成績は一層向上し、加えて薬物治療による内科的治療の多くのエビデンスが報告されるようになったことから、近年、心臓手術の中心であった冠動脈バイパス手術は減少傾向にあります。これに対し、動脈硬化性大動脈弁狭窄症や変性性僧帽弁閉鎖不全症を中心とした弁膜症、大動脈瘤に対する外科治療が増加傾向にあります。僧帽弁修復術や大動脈瘤に対するカテーテル治療など、質が高く、お体に優しい治療が求められるようになっています。心臓血管外科では、より質の高い外科治療を目標とし、地域に貢献できるよう努力しております。また、大阪大学心臓血管外科と連携し、心筋症などの重症心不全に対する治療(補助心臓、心臓移植、再生医療)、カテーテルによる弁膜症治療など高度な治療にも対応しています。

### 《実績》 2009年1月1日～12月31日

心臓血管外科では、冠動脈疾患、心臓弁膜症、成人先天性心疾患、大動脈瘤、末梢動脈閉塞、静脈瘤などに対する外科治療を行っています。冠動脈バイパス術、弁膜症手術、胸部大動脈を含む心臓手術数は、96件でした。毎年100件前後の心臓手術を行っています。

	2006年	2007年	2008年	2009年
総手術数	199	185	201	189
心臓手術数	104	78	105	96

## 《業績》

### (1) 原著、総説、著書 (2009.4~2010.3)

番号整理	題名	著者	著書・誌名	巻(号)	ページ	年
1	特発性上行大動脈破裂の緊急手術例	檜山紀幸 久保田康彦 西川大陸 泉谷裕則	日心外会誌	39(1)	45-48	2010

### (2) 学会研究会報告 (2009.4~2010.3)

番号整理	演題	発表者	学会・研究会名	年月日
1	僧帽弁閉鎖不全症手術後における三尖弁逆流に関する検討	小澤秀登 泉谷裕則 岩田圭司 西川大陸	第39回日本心臓血管外科学会学術総会	2009.4.21
2	心拍動下三尖弁形成術の実際	泉谷裕則	第39回日本心臓血管外科学術総会	2009.4.24
3	無症状の心臓弁手術—手術の工夫と適応の拡大—	泉谷裕則	第4回りんくう汲泉セミナー	2009.6.3
4	Klinefelter 症候群に合併した僧帽弁閉鎖不全症に対し僧帽弁形成術を施行した一例	西川大陸 泉谷裕則 岩田圭司 小澤秀登	第52回関西胸部外科学会学術集会	2009.6.5
5	急性大動脈解離の診断で緊急手術を行った大動脈解離を伴わない大動脈破裂の一例	檜山紀幸 小澤秀人 西川大陸 岩田圭司 泉谷裕則	第52回関西胸部外科学会学術集会	2009.6.5
6	低侵襲心臓手術(MICS)による、僧帽弁、三尖弁形成術	西川大陸 泉谷裕則 檜山紀幸 久保田康彦	第62回日本胸部外科学会定期学術集会	2009.10.11
7	超高齢者低侵襲大動脈弁置換術(MICS AVR)	泉谷裕則 西川大陸 檜山紀幸 久保田康彦	第62回日本胸部外科学会定期学術集会	2009.10.11
8	評価される看護の専門性に向けて	泉谷裕則	日本看護サミット	2009.10.14
9	最近の心臓外科手術:僧帽弁形成術と心不全外科	松江一 (座長)	第21回りんくう循環器ネットワーク研究会	2009.11.21